

ガビチョウ

ガビチョウ (*Garrulax canorus*) チメドリ科 原産地：中国南部、台湾、ベトナム等

導入経緯：愛玩用の飼養鳥として輸入されており、逸出した個体が野生化したと考えられる。

生態：森林性の鳥類。渡りは行わず繁殖期には強いなわばり性を示し、低木や地上に営巣する。主に地上で採餌する。

【調査結果概要】

日本野鳥の会福島支部の調査によると、平成8年に川俣町で初めて生息が確認されている。その後、急速に分布を広げており、現時点では、県内30市町村において確認記録がある。地上で採餌することから、冬期の降雪が少ない浜通り地方、中通り地方が生息範囲と考えられる。

今回のアンケート調査の結果からも、ほぼ同様の地域での確認情報が寄せられているが、会津若松市からの目撃情報も寄せられている。

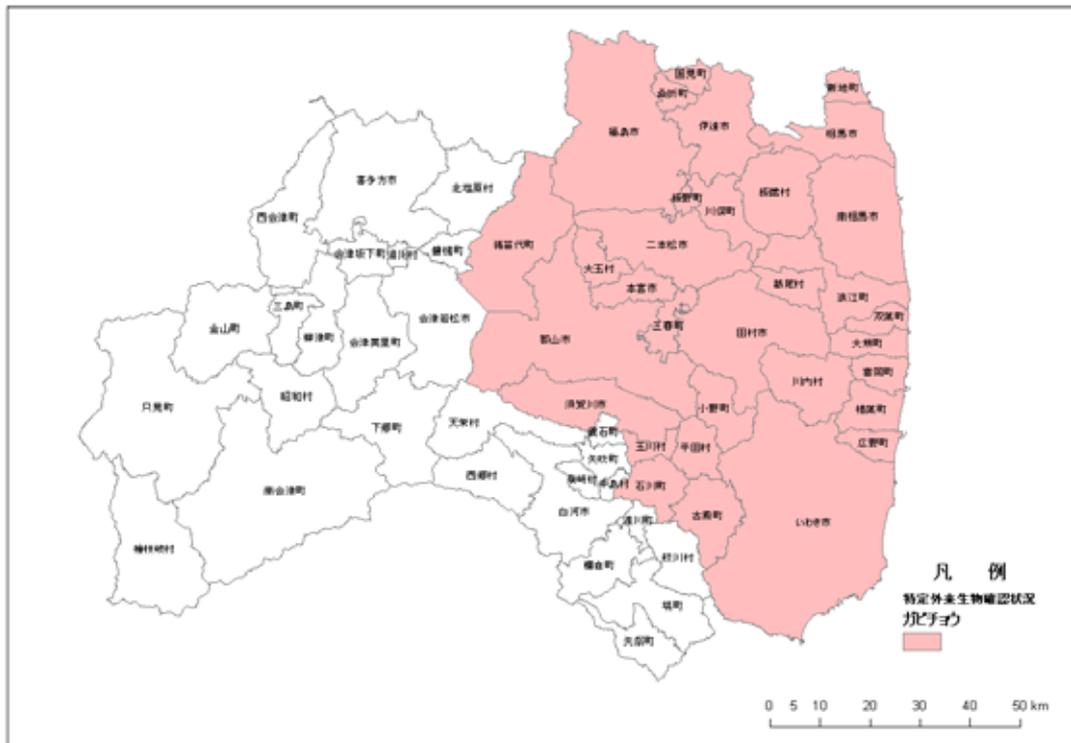
最近、目にする機会が減少した鳥類としては、ウグイスやホオジロ等、里山的な森林環境に生息する種についての回答が多く寄せられている。ガビチョウの侵入により、生息環境が類似している在来種への影響が伺える。

なお、ソウシチョウについては、目撃情報が寄せられなかった。

最近、見かける機会が減少した鳥類

種名	回答件数
ウグイス	11
ホオジロ	4
アオジ	2
カケス	2
コジュケイ	2
サンコウチョウ	2
ヒバリ	2
イエツバメ、エナガ、オナガ、カッコウ、カワラヒワ、キクイタダキ、キセキレイ、クロツグミ、コジュカラ、コムクドリ、サンショウクイ、セッカ、センダイムシクイ、トラツグミ、ヒガラ、ホトトギス、ミソサザイ、モズ、ヤブサメ、ヨシキリ、ヨタカ	各1

文献調査によりガビチョウが確認された市町村



アンケート調査によりガビチョウが確認された市町村

